

学校改革！教職員の時間創造プロジェクト

ニュースレター 令和3年度（2021年度）第2号

2学期のスタートが分散登校となり、オンライン授業の準備や見守りなどでご苦労も多かったのではないのでしょうか。そんな中でも、先生方が園・学校全体、そして学年部等で協力し合い、子どもたちのよりよい学校生活を支えていらっしゃる様子が、教育委員会事務局にも伝わってきています。先行き不透明な状況は今後も続きますが、「働き方改革」を進めることで、先生方の力になりたいと考えています。

教えてもらいました！ 勤務時間外の在校時間削減の工夫

第2期 学校改革！教職員の時間創造プログラムでは、

目標1 正規の勤務時間外の在校時間が1か月45時間を超える教職員数 0人

目標2 正規の勤務時間外の在校時間が1年間360時間を超える教職員数 0人

当面の目標 正規の勤務時間外の在校時間が1か月80時間を超える教職員数 0人

目標3 教職員1人あたりの年休の年間平均取得日数 16日以上

という目標のもと、27の取組項目で教職員の働き方改革を進めています。第1号のニュースレターでお知らせしたように、少しずつ成果が表れてはいるものの、目標達成には至っていない状況です。そんな中、学校独自で働き方改革に取り組み、成果を上げている学校がたくさんあります。今回は、その中で特に令和2年度の成果が大きかった上位3校※¹（小中学校別）に、どのような取組をされたのか取材させていただきました。お忙しい中ご対応いただき、本当にありがとうございました！

学校名	1月80時間超実人数 職員数に対する割合			1月45時間超実人数 職員数に対する割合			年間360時間超実人数 職員数に対する割合		
	R1	～R2.4	R2-R1	R1	～R2.4	R2-R1	R1	～R2.4	R2-R1
山東小学校	0.0%	0.0%	0.0%	86.7%	6.7%	-80.0%	86.7%	6.7%	-80.0%
向山小学校	22.2%	0.0%	-22.2%	66.7%	11.1%	-55.6%	63.0%	14.8%	-48.1%
池田小学校	4.0%	0.0%	-4.0%	56.0%	8.0%	-48.0%	56.0%	4.0%	-52.0%
小学校計	6.3%	2.8%	-3.5%	62.4%	52.5%	-9.9%	60.4%	48.5%	-11.8%
植木北中学校	11.8%	0.0%	-11.8%	94.1%	0.0%	-94.1%	88.2%	11.8%	-76.5%
二岡中学校	12.9%	0.0%	-12.9%	54.8%	35.5%	-19.4%	45.2%	22.6%	-22.6%
富合中学校	0.0%	0.0%	0.0%	57.7%	42.3%	-15.4%	38.5%	38.5%	0.0%
中学校計	24.1%	15.1%	-9.0%	71.6%	65.7%	-5.9%	65.0%	56.4%	-8.6%

☆独自の取組

・「働き方改革」についての研修を実施

⇒校長先生が講師となり、働き方改革の必要性等を研修
（植木北中学校）

・部活動の見直し

⇒活動時間を90分に短縮（植木北中学校）
⇒外部指導者（地域の方）による指導で、教員の「指導することへの負担感」を減少（山東小学校）

・日課の工夫

⇒週に2日、午前中5時間授業の日課を実施（山東小学校）

・職員朝会の廃止

⇒Teams や校務支援システムの掲示板を活用することで、職員朝会を廃止（週に一度夕会を実施）（富合中学校）

・時間を意識した働き方の共通理解

⇒校務支援の活用や会議の合理的な運営などの具体的な実践を通して、勤務時間内に業務を終える働き方の必要性と可能性について全職員で共有（向山小学校）

☆共通していた取組

・管理職からの先生方への丁寧な声掛け

⇒多忙感を理解しつつ、先生方の帰宅しやすいタイミングでの声掛け（二岡中学校）
⇒「帰りましょう。」ではなく、「もうすぐ〇時ですよ。」「もう〇時になりましたね。」等の時間を意識させる声掛け（池田小学校）





第2期 学校改革!教職員の時間創造プログラムでは、勤務時間外の在校時間に関する目標だけでなく、休暇に視点を置いた目標を追加しています。

勤務時間外の在校時間を削減することで、生み出した時間を自己研鑽や心身ともにリフレッシュする時間に充てるという意識改革につなげてほしいという思いの他、新たに教員を目指す人にとっても魅力ある職場であってほしいという思いからです。

なお、この目標は市役所全体の目標でもあります。



そうは言っても、子どもがいる時に休みを取ることは難しいし、長期休業中も研修や教材研究、部活動等で忙しいのです…



年次有給休暇の年間取得日数が、年々減少傾向にあるのも、休みを取りたくても取れない現状があるからだよね。

熊本市教職員一人当たりの年次有給休暇の年休取得日数			
H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
11.5日	11.1日	10.5日	9.6日

現在、年休の取得期間を9月～8月にし(現在は1月～12月)、夏休みに残った年休を取りやすくすることで、今よりも休みやすくなるような見直しを検討しています。併せて、夏季休業中の研修や勤務の在り方についても検討を進めていきます。

また、一日単位の年休だけでなく、時間単位での年休(時間休)も活用してもらえるよう、年休を取りやすい工夫をしている学校の好事例等についても紹介していきます。



「学校閉庁日」の状況について(R3年度夏季)

熊本市教育委員会では、「保護者や地域の方からの問い合わせ等へ対応する日直を置かずに、対外的に『学校閉庁日』であることを示すことができる日」と定義し、「(第1期)学校改革!教員の時間創造プログラム(H30年3月策定)に基づき、年次有給休暇や夏季休暇の積極的な取得を推進するため、H30年度から学校閉庁日を設定しています。

本年度の夏季休業中においては、学校閉庁日の平均日数は、幼稚園8.5日、小学校8.3日、中学校4.2日、高等学校3.5日、ビジネス専門学校6日、特別支援学校5.5日でした。尚、各校種の最長日数は、幼稚園9日、小学校11日、中学校10日、高等学校4日、ビジネス専門学校6日、特別支援学校6日でした。

「学校の働き方改革について」の意見交換



令和3年8月6日に「学校の働き方改革について」と題した広聴事業が行われました。

教職員の働き方改革を推進していく上で、地域や保護者の方々にご理解・ご協力いただくことは、とても重要です。そこで、「学校の職場環境等の改善」や「学校・家庭・地域それぞれでできること」などについて、教職員も交えて、教育長、教育委員、保護者や地域の方々と意見交換を行っていただきました。

後半はグループ協議でしたが、あるグループでは参加した先生が話された「学校の忙しさ」に対し、保護者の方から「しっかり協力したい」といった声もいただきました。

地域や保護者の方に対しては、今後も教職員の働き方改革への理解が進むよう取組を行っていきます。(協議の状況は、9月定例教育委員会会議資料としてホームページに掲載しています。)

冒頭にも述べましたが、次々と新しいコロナ対応を求められる中、がんばっておられる先生方のためにもしっかり働き方改革を進めていかなくてはならないと改めて思いました。そして、このニュースレターは、働き方改革の進捗状況の報告と併せて、園や学校の好事例取組を紹介したり、ほっと一息つく時に気軽に読んでもらえる内容を盛り込みたいということで、先生方と教育委員会、園・学校同士をつないでいけるような、そんな役割も担っていけたらいいなと思っています。

